

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー






南アフリカ



インドネシア



インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		2/14 (2/7との比較)	2/14 (2/7との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
カナダ 	AAA	1.37% (+0.04)	82.84円 (+0.48%)	+1.7% 2019年3Q	1.75%	発表された住宅着工件数が市場予想を上回る内容となり、中古住宅販売件数が市場予想を下回る内容。ポロズ中銀総裁が利下げに慎重と受け止められる発言をする中、カナダドルは対円で上昇。国債利回りは上昇。	製造業売上高やCPI（消費者物価指数）、小売売上高などが発表予定。G20（主要20カ国・地域）財務相・中銀総裁会議が予定され、政策対応期待が高まりやすい中、債券・為替市場はともに一進一退の展開が続くと予想。
	Aaa	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	→ 据え置き局面		
ブラジル 	BB-	5.24% (▲0.31)	25.54円 (+0.57%)	+1.2% 2019年3Q	4.25%	発表された小売売上高が市場予想を下回る内容。景気先行きへの不透明感やや強まり、新型肺炎の感染拡大による資源需要減退が意識される中、国債利回りは低下。レアルは対円で上昇。	登録雇用創出合計や消費者信頼感などが発表予定。年初より軟調な推移が続くブラジルレアルは底打ちの兆しを探る可能性があると思定。債券市場は現状の水準でもみ合う展開を予想。
	Ba2	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	↓ 利下げ局面		
メキシコ 	A-	6.52% (▲0.02)	5.92円 (+1.25%)	-0.3% 2019年4Q	7.00%	発表された鉱工業生産は市場予想を下回る内容。市場予想通り中銀が利下げを実施。米国株式が堅調に推移するなどリスク許容度が高まる環境下、メキシコペソは対円で上昇。国債利回りは小幅低下。	特に重要視される経済指標はなし。引き続き中国発の新型肺炎の感染拡大をめぐる動きから目が離せない環境ではあるものの、G20による政策対応期待もあり、債券・為替市場はともに一進一退の展開を予想。
	A3	↓ 金利低下	→	→ 景気安定	↓ 利下げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		2/14 （2/7との比較）	2/14 （2/7との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAA	1.05% （+0.00）	73.69円 （+0.62%）	+1.7% 2019年3Q	0.75%	発表された企業信頼感や消費者信頼感指数は前月比で改善する内容。中国政府が企業の生産再開に向けた姿勢を強め、経済発展の持続性と社会安定を図るとの期待が高まる中、豪ドルは対円で上昇。国債利回りは横ばい。	景気先行指数や雇用統計などが発表予定。中国発の新型肺炎の感染拡大により資源需要の減退リスクが意識されるものの、G20による政策対応期待もあり、債券・為替市場はともに現状水準での一進一退の展開を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
ニュージーランド 	AA+	1.37% （+0.02）	70.68円 （+0.61%）	+2.3% 2019年3Q	1.00%	発表された製造業PMI（購買担当者景気指数）は前月比で改善。中銀は政策金利を据え置き、従来の2020年内の利下げ見通しから、横ばいの見通しに修正。ニュージーランドドルは対円で上昇。国債利回りは小幅上昇。	住宅売上高などが発表予定。引き続き、新型肺炎の感染拡大をめぐる動きから目が離せない環境ではあるものの、G20による政策対応期待もあり、債券・為替市場はともに一進一退の展開を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
ノルウェー 	AAA	1.40% （▲0.01）	11.87円 （+0.61%）	+1.8% 2019年4Q	1.50%	発表されたCPIは市場予想を上回る内容となり、消費者信頼感前期比で改善する内容。新型肺炎の感染拡大への懸念も高いが、中国政府の政策期待もあり、ノルウェークローネは対円で上昇。国債利回りは小幅低下。	貿易収支などが発表予定。G20による政策期待が高まりやすい環境の中、中銀のタカ派スタンス継続が予想されることから、ノルウェークローネは相対的に堅調な推移を予想。債券市場は一進一退の展開を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気拡大	 据え置き局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。

※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		2/14 （2/7との比較）	2/14 （2/7との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
南アフリカ 	BB+	6.64% （▲0.02）	7.35円 （+1.00%）	+0.1% 2019年3Q	6.25%	発表された製造業生産が市場予想を下回る内容となり、小売売上高は前月比で悪化。ラマポーザ大統領が、施政方針演説で財政再建などの重要性を訴えるものの具体策は明示なし。国債利回りは小幅低下。ランドは対円で上昇。	CPIなどが発表予定。先週の施政方針演説でも財政再建の兆しが見えてこない中で、景気の先行きへの懸念が残っていることなどから、ランドは弱含みの展開を予想。
	Baa3	 金利横ばい		 景気停滞	 利下げ局面		
インドネシア 	BBB	5.83% （▲0.13）	0.80円 （+0.10%）	+5.0% 2019年4Q	5.00%	発表された国際収支統計では、経常収支が依然赤字となり、先行きへの不透明感が払拭できない内容。新型コロナウイルスの感染拡大への懸念も高いが、中国政府の政策期待もあり、インドネシアルピアは対円で上昇。国債利回りは低下。	貿易収支などが発表予定。引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大をめぐる動きから目が離せない環境ではあるものの、G20による政策対応期待もあり、債券・為替市場はともに一進一退の展開を予想。
	Baa2	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
インド 	BBB-	6.18% （▲0.11）	1.54円 （+0.09%）	+4.5% 2019年3Q	5.15%	発表されたCPIは市場予想を上回り、インフレに対する警戒感が残る内容。鉱工業生産と貿易収支が市場予想を下回る内容で、景気先行き懸念を払拭出来ない内容となる中、国債利回りは低下。インドルピーは対円で上昇。	特に重要視される経済指標はなし。引き続き中国発の新型コロナウイルスの感染拡大をめぐる動きから目が離せない環境ではあるものの、G20による政策対応期待もあり、債券・為替市場はともに一進一退の展開を予想。
	Baa2	 金利横ばい		 景気回復	 利下げ局面		

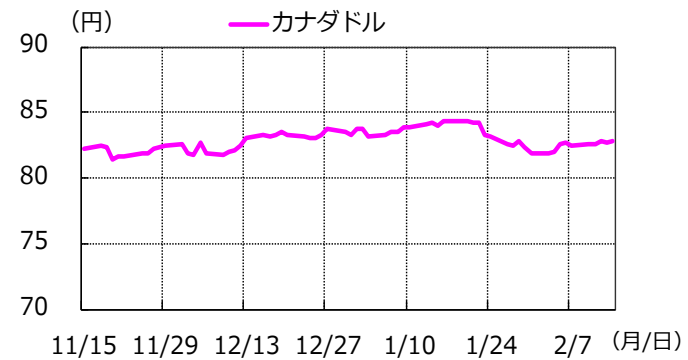
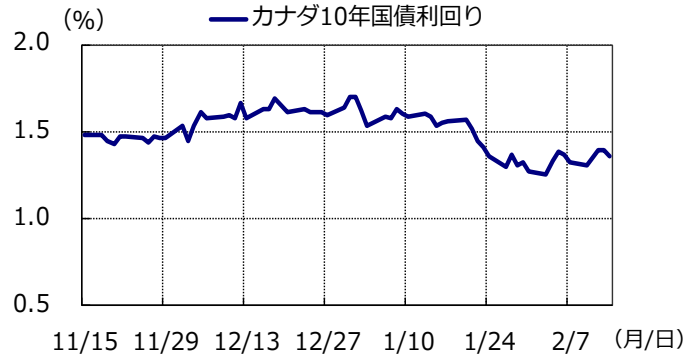
出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（南アフリカ：3年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。
- ※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

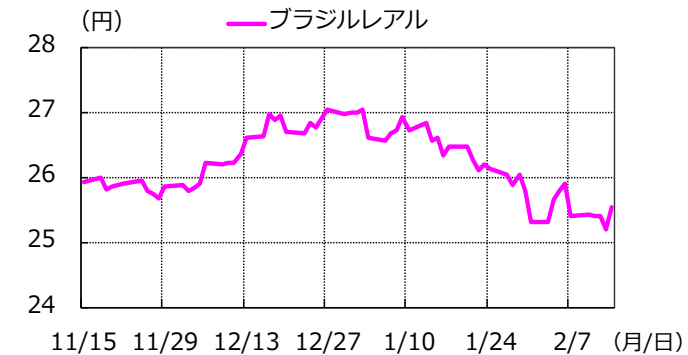
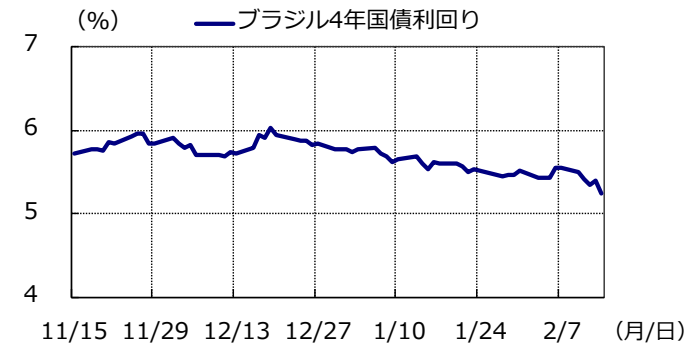
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/11/15~2020/2/14

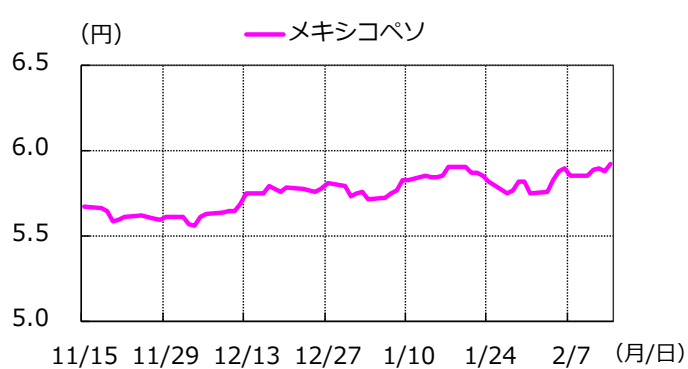
カナダ



ブラジル



メキシコ

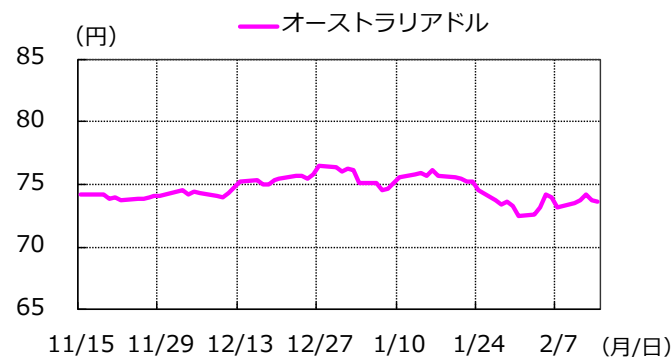
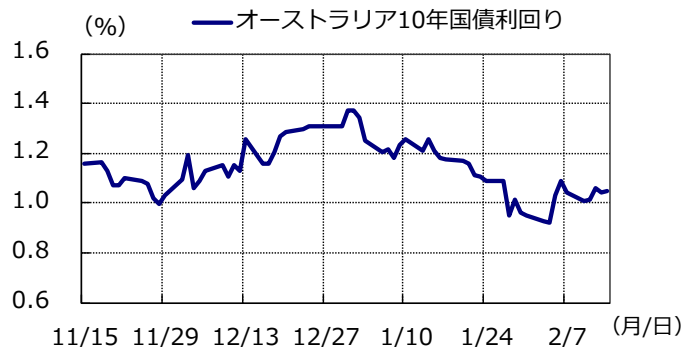


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバークのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

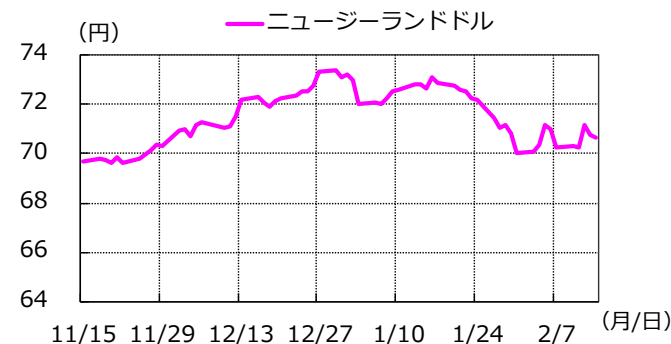
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/11/15~2020/2/14

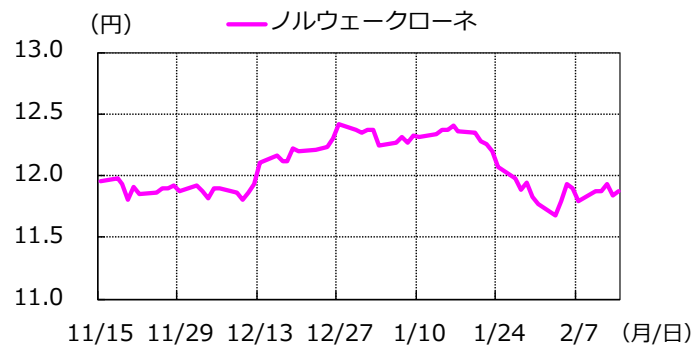
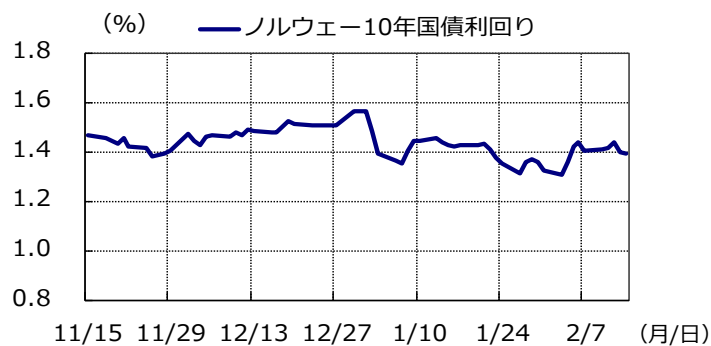
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

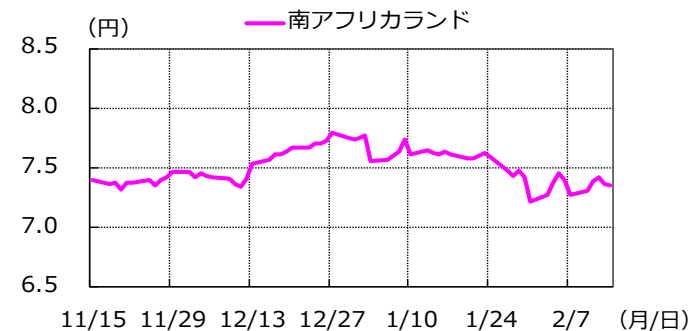
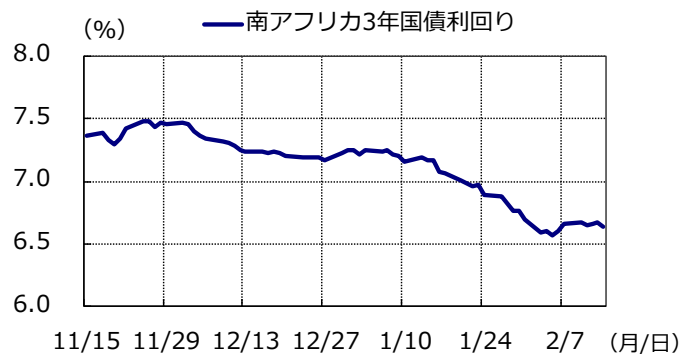


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

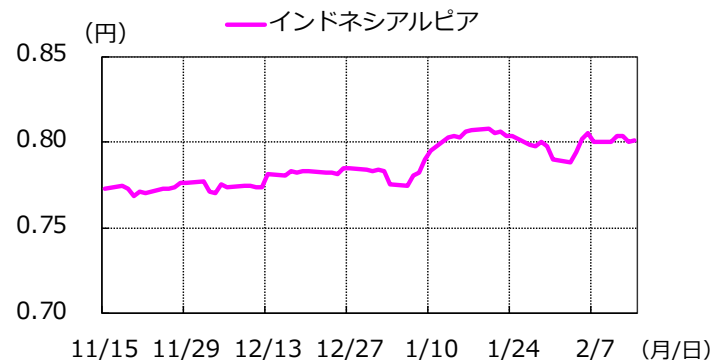
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/11/15~2020/2/14

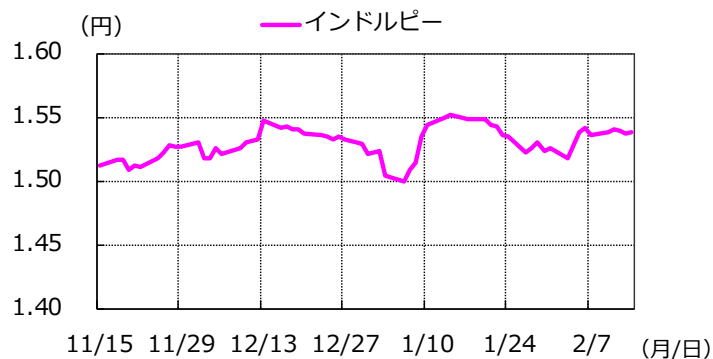
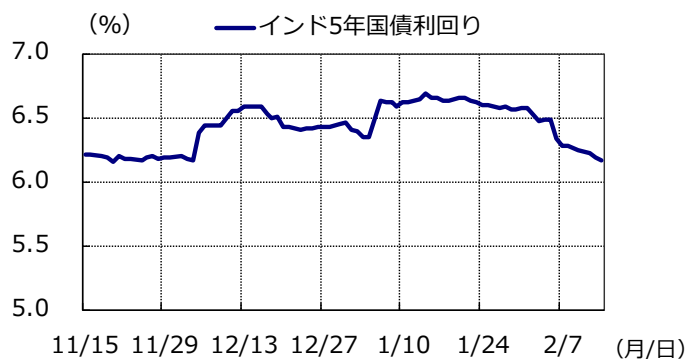
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。